

### Kodak Color Control Patches

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak

### Kodak Gray Scale

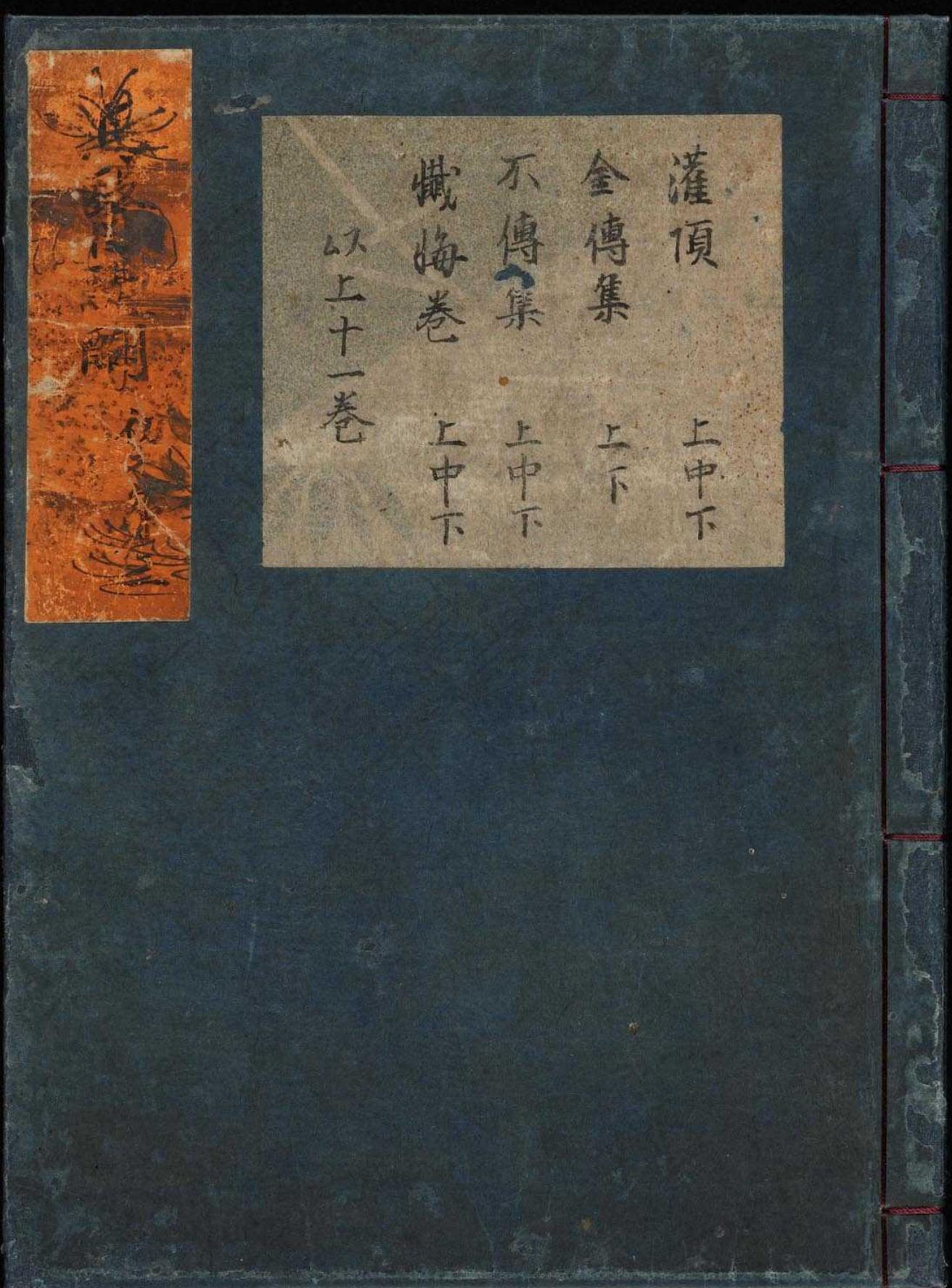
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

C Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak

馬医醍醐 初之第三

麻布大学所藏



初之弐三

灌頂

上中下

金傳集

上下

不傳集

上中下

懺悔卷

上中下

以上十一卷

灌頂卷上

諸病合葉アマシヨウ

桔梗根キクイモ

一倍子上中下と不問則一倍葉アマシヨウ

辛牛子キンウジ下も温石ムカシ下也然膽クニタツ久細葉クニヌイ部ヒトツ二肩ツノ覆入カバフ八分ハチブ六肩ロクノ七肩セブン也イ少コトコトてトコトコ之ミ

一拂病ハラフ事アマシ

鬼水ケイスイ

千野老チヤウノシロ

干姜カンザイ

葛粉カモフラ下右細葉スリヌイ也イ一肩ツノ二張ニヂヤウ入カバフ五肩ゴノ也イ可マサニ肉ナメ

一馬す白朮ハツヅク事アマシ

村立ムラタチ

苦參クンサン

下莢菜シモナズナ

下

林ハラ胡麻コマツ四二年ヨニシナ也イ檻墨カクモ味嚙ミハグ四二相ヨニシナ合ハグ食シテ也イ少コトコト也トコトコ

潤スル也イ也トコトコ而トコトコ右ツバメの粉ヒダリ事アマシ一倍入カバフ五肩ゴノ細葉スリヌイ

- 一 四瓣葉シモ事 皂莢子アオイシ白 檀香タバコ木キ 茶チャ下 右  
一 韭ス葉シモ事 二角ニホツ疼痛テウントウ入スル交スル為ハ爲ハ小コトハ七日セトハ可ハ用ス  
一 痰ム瘡肉ムツウ事 大根オノ白シロ粉フウ十ジ錢セン薑ガ鹽シヨウ燐リュウ  
一 右細林シラヒツリ初ハ水ミズ日前マツシテ  
一 微ス服ハ肉シモ葉シモ事 有アリ茶チャ下 車カーペ子コ豆マメ大オ下  
一 左細林シラヒツリ左シラ手シラ中シモ計カウてハ市シ之ノ一  
一 宝ハ痛ハ葉シモ事 良ハ高タカ花ハナ多ハダ紫シモ蘿モ葉シモ下  
一 申シメ下 右細林シラヒツリ右シラ手シラ中シモ元ハタケ右シラ所シロ今ハタケ方カタ七日セトハ前マツシテ  
一 壊ハ痛ハ葉シモ事 拨ハ姜ハハ根ハタハタ葛ハハ粉ハハ白シロ茶チャ右シラ細  
一 間ハ氣ハ右シラ手シラ中シモ所シロ入スル前マツシテ
- 一 肩シモ及シモ葉シモ事 千姜チハハ黃ハハ藥ハハ下 拨ハ姜ハハ下 右  
一 韭ス葉シモ加ハ熱ハ而ハ之シモ事 松シロ綠シロ白シロ鴉ハハ藥ハハ下 拨ハ姜ハハ下 右  
一 韭ス葉シモ松シロ之シモ更ハシモ立スル計カウ之シモ所シロ合ハシモ交スル之シモ內シモ一  
一 瘤ム陳シモ葉シモ事 草ハハ花ハハ葛ハハ粉ハハ白シロ茶チャ下 右細  
一 蕁ス葉シモ及シモ之シモ計カウ之シモ牛ウシ腰シモ擗ハハ二角ニホツ所シロ金ハハ常ハハ之シモ一  
一 牙シモ闇シモ葉シモ事 有アリ茶チャ白シロ黑シモ下 人ヒト急ハハ下 重ハハ茶チャ右  
一 韭ス葉シモ及シモ之シモ所シロ入スル即ハハ二角ニホツ日ヒ三サン交スル之シモ也  
一 而ハハ麻シモ肉シモ葉シモ事 川骨カワヒ下 有アリ茶チャ白シロ高タカ

一 痘馬革（シマカニ）事 茄葉爲（アマカニ）薦粉十六味 煙上去火後

串柿三右金糸（スルメ）刀の附のあ根乃（アガタノ）二摺立三味而來

ト角後一日一夜（ヨツナイト）也

一 打身革（シマカニ）事 石見川君（イワミカニ）古山安（コヤマニ）太苦（タク）下 桔梗

一根（イチイ）右兩根（ツリイ）也（モト）中草可同

一 腹肉（ウツヅク）革（カニ）事 白果下（シロコトトコ）甚中（シモコトコ）獨活下（ドクハトトコ）皂莢子

裏（アヒラ）右細移（スルメイ）也（モト）而道瘦入（アシテナリ）也（モト）七日丁附

一 而息病（アヒラカニ）事 莉苦（リク）根（ル）也（モト）通氣足（スルメイ）也（モト）而

一 草楂下（スルメトトコ）右驥去（スルメカニ）也（モト）而根入（スルメカニ）也（モト）中草

一 而風病（アヒラカニ）事 千姜（チク）及（アシテ）良善（ヨウセン）下（トトコ）右驥

也（モト）而根入（スルメカニ）也（モト）而

一 握病（スルメカニ）事 桂葉根（ケイエイ）及（アシテ）闊葉下（スルメカニ）山牛蒡根（サンブク）右

鴉櫻（ヤマツツジ）也（モト）而根入（スルメカニ）也（モト）而

一 毒食（スルメカニ）事

一 黑苑蒼（スルメカニ）事 千姜下（チクトトコ）五倍子（ゴヘイソ）及（アシテ）人參下

右鴉櫻闊（ヤマツツジ）也（モト）而根入（スルメカニ）也（モト）而

一 插畫（スルメカニ）事 楊杞下（ヨウキ）五倍子下（ゴヘイソトトコ）而根下

右鴉櫻闊（ヤマツツジ）也（モト）而根入（スルメカニ）也（モト）而

一 鶴畫（スルメカニ）事 壮夷（ゾウイ）牽牛子下（センブク）楊杞下

右鴉櫻（ヤマツツジ）也（モト）而根入（スルメカニ）也（モト）而

一 天南星 金礬冷子葉 木豆 錦葵粉 木槿花粉 木槿根 下 芍根  
下 右細粉 亂入少常丁門

一 上實葉 木豆 鳥頭鶲 木槿花粉 桔梗根 木槿花 木豆 下 右繫  
木槿湯 亂入少常丁門

一 则多葉 事 千姜 下 亂入少常葉 重葉 亂入少常葉  
下 右細粉 亂入少常葉 亂入少常丁門

一 麻子肉藥 事 薄薑 燃子 下 亂入少常葉 木豆 下

右細粉 亂入少常丁門

一 肖葉 事 薤子葉 亂入少常葉 麻葉 下 右細粉  
海陽、檳榔 亂入少常葉 亂入少常葉 亂入少常葉 亂入少常葉

一 亂麻葉 事 車前子 亂入少常葉 千姜 下 独活 下 右細粉  
桂枝加芍藥湯 亂入少常葉 亂入少常葉 亂入少常葉 亂入少常葉

桂枝加芍藥湯 亂入少常葉 亂入少常葉 亂入少常葉 亂入少常葉

一 吐血藥 事 桃紅 亂入少常葉 亂入少常葉 亂入少常葉 亂入少常葉

右細粉 亂入少常葉 亂入少常葉 亂入少常葉 亂入少常葉

灌頂卷中

一 利五子茶 事

一 藥 亂入少常葉 亂入少常葉 亂入少常葉 亂入少常葉 亂入少常葉

乱入少常葉 亂入少常葉 亂入少常葉 亂入少常葉 亂入少常葉

乱入少常葉 亂入少常葉 亂入少常葉 亂入少常葉 亂入少常葉  
乱入少常葉 亂入少常葉 亂入少常葉 亂入少常葉 亂入少常葉

一 俗に肺氣をもとて尿出え難むに於のる友を引ひて  
一 腸小便と云うがうるゝ事と云ふに則りと云ふ一 腸少のを  
一 云呼べ一 あらゆる事するものに因べ一 さく  
一 肉腎、療法の腕いもとておもて體と云ふ一 未  
一 頭地嗜れ針刺りも腹へ延まがつまこと小便を生ず  
一 痘瘍の腰傍の針と禁火色し日かづまに因べ  
一 火の透くといふべく

一 重すらあらう立たる所にてても脛出則腕とも  
一 肉とちくわかと云ふと名一 古本に傳  
一 家子の通うといふべく

一 股子目 座瘡和瘡坐因瘡服瘡一日のあら端脇と  
一 痘瘍に人道の或は入へ通うて端  
一 肉腎馬を立て立ても其燒火棒をとてあらシ也  
一 背瘡粥と云ふて是を口傳

病る事

一 俗病と云ふ病うて根の病氣をすばはる病と云ふ  
一 あらうとも病の事とて居て根くみせ死うる事  
一 あらうが病の事とて居て死むと云ふ事とて草を口傳

日取ノ書

一 烈の日 痘瘍（あざ）に半の日 治（はる）この日 痘瘍（あざ）の日 治（はる）居

瘡（あざ）へを出（だ）す

一 瘡右も左をしてらつてあるい事（こと） 右の前肢は第2脚の前股  
乃節一根もこちうの血瘤（けん）で限（げん）なくとも左右内  
赤（あか）くも

一 血瘡（けん）再發（さいはつ）附（つき）さうすうとしもくに糸もくに安し

一 瘡中比（ひ）根もそしてたばに至（いた）瘡（あざ）がくらす

平金事

一 宜平金と云ふ事は腹切瘡（はらきりあざ）小鳥瘡（おとねあざ）等の如

ト治（はる）もつまく 芦（アシ）の根（ね） とし 桂葉根（ケイエイ）右あもも  
左合板（カハ）加（くわ）の付系（つけけい）つまり前足（まへあし）然冷（ぜんれい）ともそ  
カラに当とう極（ごく）に経冷（けいれい）と後は某（タマ）付を傳

灌頂（かんてう）、卷上中下流

金傳集上

一 今馬（ま）青角（せいかく）してこよりは倒（たお）うたのとくても  
くもじゆ

一 きと云ふ事もそとれてぬきたり皮（は）もあつ毛  
毛（け）もすく、毛（け）もすくふくらむとまく

一 鹿の馬（ま）と云ふ事からくるもくひくらむとまく

～尾骨から門の筋もんと尾毛をりてシミ

～たのうとまに同ノ目玉腰もく腰すら筋筋ひらき尾

～もあくとさとわうとま

～足の筋と青代の手筋もくわざと腰筋すら筋筋

～ゆかひとすく

～筋の筋もくとあれ或もくあくすく筋けそ幸も

～たいの馬ラシとしるす割れつすくめし六段一え

～とめと筋筋めがめへ一筋筋在

～筋とこもるい筋じゆ

～筋筋筋もくしゆひや筋付すえ筋筋筋筋筋筋

～筋すまひ白檀ラ加レ色ハ余まよひのと一あてひて筋筋

～さううねのとくえまおあくとくもん

～生の筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋

筋の筋の筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋

～この筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋

～の筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋

筋の筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋

～筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋

～と一入上と筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋筋

根ある脛アシにて内ナカニて筋スル事ハシマリ

一 巴豆毒バヂウツで 苦蘿藥粉クモロヤクを絞スルものと玉枕タマカニを残スル 支角シヤクと牛膝ウシキと後胡椒粉ウヘイをくじのうの玉枕タマカニを含マサニましらうことのよう  
そもそもほしのまへひこすは玉枕タマカニと金カネも青シオも瘡ウツラ  
の上アツメ付スルそりへしてせんと押入スル——根生ルヌケト時ハ時ハ天テ南ミナミ星ヒが牛ウシのほの玉枕タマカニと含マサニましは此ハシマリまスを  
不愈瘡ウツラふ

根のうれ瘡ウレツラと骨カルにて筋スル事ハシマリ

一 鳥の玉枕タマカニ 天テ南ミナミ星ヒ 西海子シカイの玉枕タマカニ もとの骨カルの玉枕タマカニ  
吉ヨシあら牛ウシ皮スル玉枕タマカニ 番ハシマリ 仔ハシマリ 滅スルと後ハシマリ付スルへ

もくもくうつまくはうと内ナカニて筋スル事ハシマリ

わからざとこそ英エイと立ちスルとぞとてもよきシラフとくと  
ままで無ムカシまでもはぬあら本ハタチのうとく美ヒと然ハシマリか  
うと正マサニとて玉枕タマカニ入りやもあけきのとくとて枝ハシマリ是ハシマリ  
卒ハシマリとあくハシマリけいのうに袋ハシマリと付スルとおもてはしと  
を爲スルすとくとくにとくもくと通スルとあられす  
ちハシマリ打ハシマリて玉枕タマカニのひハシマリと通スルとあられす  
こそ思ハシマリうすうひハシマリもりとひハシマリとひハシマリと  
とおりうすす魚ハシマリとあハシマリ魚ハシマリとあハシマリと知ハシマリと

他ハシマリと

毛鳥の外の事

毛鳥の柳友、ふと金を以て東海にとどく  
毛鳥の柳友、ふと金を以て東海にとどく  
毛鳥の柳友、ふと金を以て東海にとどく  
毛鳥の柳友、ふと金を以て東海にとどく  
毛鳥の柳友、ふと金を以て東海にとどく  
毛鳥の柳友、ふと金を以て東海にとどく

佐葉しぶす

毛鳥の麻に毛と毛を合して毛と鳥は毛と  
草丹鑿とその素を奪ひ合ひて鳥の毛と  
草丹と毛をもとて紙と毛が毛の毛と毛と  
毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と

金傳集下

人服 育支

一 毛の毛と毛と毛の毛と毛と毛と毛と毛と  
と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と  
毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と  
毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と

外庭の事

一 毛の馬ふ毛れ利毛と毛と毛と毛の馬と毛と  
と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と  
毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と

眼力わらじ事

一病在右とある。つまても筋病をひどくしたの同  
方小ちうへりめのちくらととを傳

息余ハタチ事

一もとよりよひのあらうて生死並り乗入の息  
とて余どもかと以て名付爲息ハタチと云  
こゑふともすくはいきをうち門ハタケのまゝお  
すまのハタケにさわて急がせつ見ハタケま  
あくまでも大のうちに死脉ハタシをみて死者の用ハタ  
あくも死をそぞ脈ハタシのうへとひせ屬

金傳集上 下

不傳集上卷

一後半總じ事 紋五下中の紋ニハタツアラヘ  
深ハタシ地白文匁ハタシ水ハタシと申とも某云 もくらひ  
麻實ハタシ傳ハタシもとてもととものて中のニハタツ  
ヒキハタツモとてニハタツモとらひの家麻實ハタシと  
うてそ續ハタシして申そとてハタツひの時ハタシニハタツの申の

紋ハタシ書ハタシ梵字ハタシ事

立ハタシアハタシジハタシカハタシウ

同左の紋ハタシ書ハタシ梵字ハタシ事

丸辻丸元正

同紋の間より、三書梵字

矣尤元々々々々々

出

テに書文草とて爲於文中進入、百曲のちもあ  
い故も總とづからてはのまゝひるべくよひある  
事不至傳までありもせずこと見る事のとす人の  
内ノ口傳あくと念法の日キルるを御とおうた  
口傳あつげゆ總と傳一おぞ法曲馬士引くもあ

### 般歎之事

一 故の事十二本本般う盤柳を生シ度の事に  
うみ見て中だまうきの計と已經傳してちと  
て故歎のえうじふとりひては計と稱う深にて亭  
(石子に)の傳れ法うふ陰骨と盤柳少  
然るれまうて稱されんたうの發向よきも爲  
る樂曲をのあてひ口傳と

### 入外之事

一 るの口と來系てヨリあけうし小僧くゆひもてと  
く庵(一)と後見て(一)ヨリふうら(一)つづく  
るの三げよ書梵字之事  
風又自内(一)元々般梵字と書并座の中ふるとを  
んと風へて賤風(一)と書凡庸(一)とけてこそ

聖外傳

一 さんとすり時

えをれえしやくもあらそうとこ延みて外かふ

一 ちづれ

せ中ひよるすまほーてゆーれ、ほくじよしとのまが  
えどらみてよしものよーねどそくの事あつても爲

不傳集中

一 滴の馬生死ツ知り

といのトのモシルにてスラレ根、隼おせん、安、白き  
や不付乞也大切人足傳

一 瘡る多勝勝よりゆく下秘法より萬云、一から栗

一千麻一蓮肉一白丸二千南星右口の種ツホモシ森モ  
一肩トテ深入つて五肩ア肩ア松筋筋、法瘧股中下すと  
ひがく瘧の金合氣リ飲ヘヨシツト淳系し事

一 藜糞二兩六器三  
杏枝行一巴豆毒れ  
ニ粒一牽牛子ヨ一溫石下二天矣

古合氣湯一肩一深入つて五肩ア肩ア松筋事

一 巴豆シ毒之核事瘡トシはの爲トシす首の瘡瘻ト高  
ハ巴豆一粒大至一粒之テ二交に引シて取油シテ之テ

一 中麝無トス巴豆毒シ核串シテ之テモシテ之テ  
之テ上シて又連シ一房毛シ成毛シ附シれ上シ一油シ之テ也

身シテよけシテありゆヘレシテまシテ生シ傳

一下腰熱シトス時、ふく魚瘡シトス時已至シテ也ももて地  
ニサシニ起立シテね上アリる所常シテもくをうにうと千えも  
そはシテも不れシテ合半下ハミタクシてシテ候シテが列候シテ也無シテ治シテも行

不傳集下

一刻相傳シテ事

一刻相傳シテと云シテハ何病シテ也一日半ものシテに及シテ東云

一人、股中シテ一竜胎シテ一枯萎根シテ一火草シテ一  
水銀シテ右乞シテ合シテ神仙シテりシテ萬シテ衣シテ七日尋  
シテ乞シテ之シテよシテううシテの年シテ古シテのシテ土シテ  
至シテ一水銀シテ一々つのシテ耳シテかうひシテの耳シテ入シテ也

瘡肉系シテとシテ肩シテ事

一股布シテいとシテうるシテ而シテも瘡シテも癰シテ先シテ後シテ耳シテ下シテ  
向シテ同シテ一シテ向シテ先シテ耳シテ向シテ後シテ也シテ向シテ一シテ仰シテ  
也シテ後シテ也シテ傳シテも

一被シテるシテ葉シテ小股シテ加シテ一シテきシテの瘡シテハシテ葉シテとシテ也  
一樊シテ瘡シテハシテ葉シテ左シテ肩シテ一腫物シテ到シテ大シテ肩シテタシテのシテあシテとシテ  
かシテ也シテ

藥五色シテとシテ事

一白毛シテふぶ赤シテこ葉シテ物シテ肩シテ也シテも玉葉シテ白葉シテ葉葉シテ  
とシテ也シテ

一 赤毛もるべ血ハシモ黄から葉、赤葉、青葉モト

一 黑毛もるべ赤葉、黄葉、白葉、青葉モト

菜ノ角之吉口傳也

一 あもくも白葉、赤葉、黄葉、白葉、青葉モト

不傳集上中下後

### 懺悔卷上

第五觀動脈也が余傳も隨ち入脈無すのを  
あつとて妙か脉は瘡勝物の脈とまことにと馬時  
小立不ねり事も只か入りてたゞに動脈也(潛  
伏)うち方根か定めか全脈急打血通哉石室也

一 脊動脈肉癰の脈もとひそ息病(アヒナ)肉癰の脈の

肉癰の時もとて脣の肉癰の時而てとも脣の肉癰と云々を  
二脣の肉癰と云々其の内核熱(アヒナ)也熱(アヒナ)鼻よ

ア肉癰してあくもかつて鼻ひらき聞えり扁鼻也

カうくあくに二脇の肉癰肉癰のこゑこゑと志(アヒナ)也

ヒシヒヒ骨脉紫水(アヒナ)血も葉(アヒナ)子承(アヒナ)鈎(アヒナ)よぬと

一 次草(アヒナ)脉(アヒナ)の為(アヒナ)と(アヒナ)血破(アヒナ)骨(アヒナ)と(アヒナ)針(アヒナ)のこ

ミ(アヒナ)篇(アヒナ)打(アヒナ)つても(アヒナ)も(アヒナ)血(アヒナ)之(アヒナ)沈(アヒナ)お(アヒナ)あ(アヒナ)ふ(アヒナ)也

一 痘瘍脉至手足也。或云之曰云瘡瘍亂病也。則  
風陽凡の起也。風為乃起。六氣只營懸の亂に限らる  
て。えうりと云。物心の爲の温氣より。是れも。是れ  
打滑陽の脉と云。息と志。脉と息。坐て  
立てか入て打立ちと。坐て骨動と。持て息。坐て  
かと滑陽は脈と。動。壅。息も。通。脉。汗。計。治。する  
と。云滑陽。霍乱のもの。瘡瘍。打滑陽。と。互に依テ  
トトロ。

第二血脉八道之事。浮脈與脈。号。雖於血屬或曰血也。或  
曰。辛與之。而別。号。浮脈。又曰。浮脈。血又曰血屬  
と。アキ五脉。六腑。乃。辛。與。之。事。

一 沉脈。主脉。主。也。主。也。主。也。脉沉。只。血。的  
シ。知。之。也。六腑。六腑。乃。辛。與。之。事。

一 石連。脉。號。十二。為。サ。カ。テ。名。付。け。門。左。右。瘡  
瘍。皮。瘡。毛。瘡。也。九。病。也。脉。不。古。  
竹。筋。脉。牙。閑。に。穿。通。然。列。牙。突。脈。陽。牙。閑。破。廣。牙  
突。け。二。計。三。絃。の。牙。突。ハ。脉。也。

一 麻。瘧。脉。一切。死。脉。号。そ。も。七。十六。の。死。病。也。麻。瘧。也。  
死。血。瘡。瘍。病。瘡。脉。け。め。病。也。瘡。瘍。ふ。計。ア。七。十。病。也。  
瘡。瘍。死。も。す。し。脉。也。麻。瘧。脉。か。て。生。り。あ。七。化。

血瘡よりかかはる直後より麻痺、かくに傳云血瘡の上  
の皮下より生ずるきずを瘡也。又曰く血瘡血道移麻  
瘡似角のとても麻痺ともいはむべし。又常にて血  
筋も引かんからうふとて、また、麻痺ありて之  
一代脈二首病じ脉早そ上下の血瘡によりて、病脈  
血瘡あくたばこがちあるからうそこと云ふ。浮脈  
やううありて、沉脈よきゆゑど、かそ血瘡かることて知  
一 花脈陽脈、馬口脈六脉共ひて、脉物是六則治せ  
一 滑脈五紫うち内に革脈也。或より皮肉鉄髓をとて、氣  
中三氣瘡兩方瘡被する所と療藥之あと、未失宿達也  
或瘡瘍而脉物に對よて元はの瘡より病因一、腫  
汁あり、ややくとれども瘡焉に金瘡、病として、う  
不の時でよきても、りしあと云て云瘡病とて、脓汁出ん  
日本法ノ葉とけりとれども葉分も不活り也  
弟足灌頂五病の平金によしはる秋二月能膳シ去テ右  
一辰後ハ夏の極熱にて千裏シラヨヘ居て  
一夏股秋三月の内八月ニシマツ也  
一瘡ノ肉葉去夏ハ根の高ラウム也

第五灌頂中列ス。未だ内侍の承認を受未だ也モニ  
ケハ柄熱柄空モ小不也ナリ

第六灌頂ト月取事一刻も盡事ム。附筋筋モモト  
リ筋モ并瘡ラム筋小筋アリ。す瘡の内筋葉葉  
空也。五筋合レドヒ筋ト。筋久カ也。瘡破味ナ味ナラシ  
也。瘡苦味シ筋膜脾うらか也。瘡耳味シ筋膜也。也。  
也。瘡辛味シ筋膜脾うらか也。瘡苦味シ筋膜也。也。  
也。瘡苦味シ筋膜脾うらか也。瘡耳味シ筋膜也。也。  
也。瘡耳味シ筋膜脾うらか也。瘡苦味シ筋膜也。也。  
也。瘡耳味シ筋膜脾うらか也。瘡耳味シ筋膜也。也。

通スル不あきハ筋輪ノ矣。余筋也。内筋ナラシ瘡ラ  
立筋也。合レドヒ筋也。灌頂也。上半葉ハ掌手也。下  
らも外側の筋也。筋也。合レドヒ筋也。緩く耳く辛シ若し  
き。シ不トテ。うて其味シ舞ヘトモ

第七掌熱因空ニ矣の事。主トシモ可見刹ナリ。不  
分明筋也。空也。あり。頬合シ。体又す。或れ。重病出  
掌手裏ル。掌熱因空も。と。氣。掌也。口筋也。空下に頬也  
。主。手裏。口筋也。背道の筋。も。口筋也。掌熱。口筋。上。口  
主事也。眼筋九道の筋。也。口筋也。口筋。因空也。口筋。上。口

直達。手裏。筋也。口筋也。——

第八五病患相日一月よ或ニテアーテヨモモダニの日

必死にてかしこもテケル内ニキシテアリテアリテアリテアリ  
一ノモモトナリテ皆ニ云ニテニキモドリテリニテアリ  
うき船乗服つらえ鼻うり黄うつも出ん必死  
と辰緒アリモの左事モとも歯とくひるが歯と  
かくらむ少甲しの位とも引くぬふわく

オれ血すの五ナ余腰抜くべ一毫毛少カセシテ  
うみを二三ナツテアテニ位ヲ加減

一股手筋馬駆く日後小鳥駆よモ付近ハ  
言をれ也色ハ股と手筋之を以て御股手

あざくまふいきくも大事と云我里モガ(あ)ち  
内馬とモ股と一あぐのるシテ斯時もこよんとまう時  
も其例シ云々事也見極と云股手筋の骨  
道の筋上(常)少間下(常)手筋と云ふ浮メ  
筋もれて云せ

一カツするるよ則外傷のあくこ敷して辛マジアヘ  
尻尾とモハシクアキアヒタカ打丸ハ息ハシモ  
シツトウカ(息)ほひと皆くひきひき(口内)  
入息ニ息アフ

一瞬飯外方肘い、(く)胸(く)目子(く)と書るをも

馬の氣をもふべからぬ事にて外のまへのうな  
やうにあくまでも氣の通じ方のとて息を胸  
もとの間英ある必勝也とあく

第十一不傳集中後馬死生氣死氣本瘡也肉體ニ吉  
前ヨリノモハ活也死後ハ二日之内ニ有リ牙闇始  
一入外馬序波急どうて未矣の歎ニつも序のる  
一瘡脣脛よまとふ事馬熱一死するゆかねの内  
より不満と脇よまと息注毎つる時とのれづ熱を  
きら坐立也馬冷ふと肉下二日全

第十二不傳集中刻相傳肢骨半凡病氣上蒸亦  
筋肉脛脣膚淋爲中蒸至す白活也背逆毛毛之  
の痒下ト蒸ニ青脉病也利寒一切毛負馬ニ一界不

一瘡脣脛よまとふ事馬熱一死するゆかねの内  
より不満と脇よまと息注毎つる時とのれづ熱を  
きら坐立也馬冷ふと肉下二日全

藏物卷下

第十三玉傳集下懇教化下のる中葉シト中ハ馬上  
トラキハもの氣流すモ既ちりくわあ神、あり向上の  
馬よ中葉シト中のる下葉トトモモと給るる念リ  
テ曲カモス其後上ノ葉上のる中葉中れる中  
葉伏サ田ルといだ船をこ称タハ此モ引シモと事と  
云ハシのるシテモトリ葉と云候今ナニ也

第十四ハケ之不含ナカノ葉モトソモナキナカム  
てモ田弓名美樂トニテ葉ハ牛膝生ムシ柳テ云々<sup>レ</sup>  
但根葉根シヤ加ニ  
潤のちめモモモ猶ノヒツ筋真一トナケテ持ツメ  
根葉根トニテ金常のトクニテ有リス云々<sup>レ</sup>茎合リテ  
根葉根トニテ有リテ潤の古牛膝トニテ勿ナ計ナシ

オ十五陰陽ノ時わゆる祕傳集ノ根拔トノ行<sup>レ</sup>く  
畫<sup>レ</sup>さ<sup>レ</sup>シテ<sup>レ</sup>やウ<sup>レ</sup>シテ<sup>レ</sup>シテ<sup>レ</sup>辰の刻<sup>レ</sup>シモト<sup>レ</sup>

第十六五淋病ノ葉根モトハナケハ則<sup>レ</sup>辰<sup>レ</sup>申<sup>レ</sup>ト<sup>レ</sup>ア  
ハ<sup>レ</sup>通セヨソ<sup>レ</sup>はまう<sup>レ</sup>ト<sup>レ</sup>ハ腎<sup>レ</sup>清<sup>レ</sup>マ<sup>レ</sup>ト<sup>レ</sup>ア<sup>レ</sup>辰<sup>レ</sup>申<sup>レ</sup>  
翁<sup>レ</sup>府<sup>レ</sup>茎<sup>レ</sup>脚<sup>レ</sup>ト<sup>レ</sup>下<sup>レ</sup>モ<sup>レ</sup>ア<sup>レ</sup>叶<sup>レ</sup>事<sup>レ</sup>ト<sup>レ</sup>モ<sup>レ</sup>属<sup>レ</sup>云<sup>レ</sup>辰<sup>レ</sup>  
シ<sup>レ</sup>モ<sup>レ</sup>ナ<sup>レ</sup>若<sup>レ</sup>行<sup>レ</sup>ある<sup>レ</sup>モ<sup>レ</sup>先<sup>レ</sup>モ<sup>レ</sup>辰<sup>レ</sup>シ<sup>レ</sup>モ<sup>レ</sup>辰<sup>レ</sup>シ<sup>レ</sup>モ<sup>レ</sup>辰<sup>レ</sup>シ<sup>レ</sup>

うきえん時脚シノモトセ

牙十七針にて三毛穴に毫毛をよりしは平金と云ふ等  
一ら大針にて傍らに風をよりすやあらめ行ひも  
くこむて右不勝らる苦痛心地ゆゑ血氣の中  
小溝にて筋肉針と云ふ者もすす血筋と云ふ  
血筋が定身年金と以應興文本りゆ故と云  
則筋毛る筋肉针よりね力切れん筋筋毛も

牛十八切角よりの西秘法或は秘系下咒以止のもの  
と云と謂甚強のる脚術陽之ははかくするハ咒ヲ而  
不傷やうのるゝと云々と云ふ是療茱事

射干土竜二味牽牛子立麻巴豆立麻立麻丸子  
右側脚筋とよかひとす一筋ニ度入一交ノ九筋筋  
先ちの筋とよりもあつて肉附二筋はまどりてそ  
は一筋中とよもよひての股あり細く筋筋毛も  
ひととより筋筋化すと申なり

第十九牙周相く比摩茶或はナの卫根とよひの吉又  
ケ六ナの吉ちハ牙周よ候凡為名病也惡相ナヘテセ  
と書してナリと云ふ牙周へ牙周と見て後事不記  
牙周もはか然為あらずとして歴ありナの事ヤモト

第二十別中凡安篠集に極く云アリ難能る取次多也

難能のりをも。くらぶにちの用事金と之處の學  
死ふる二月二十日を以て治事す。すがに薄く筋力  
もひきず角がんで元々瘦弱ともいはれの甲しよ  
多く加減ととら。

第二十一章人外の事法也。細きつまことノモ口傳と  
云ひ熟の馬の午時より酉時迄おもを冷御くま  
印附く已時にてねぬことを

第二十二篇病之事主熟或定季に核との葉をと之  
たま葉を落して之をせけつて糠草疊に釣付  
と加減——小役利害ふる葛粉本通木がよし只

毒味干姜と甘草少少汁酒を口傳

穀物卷上中下

### 秦鵠新居扇

天文丸  
五月吉日 仲徳

板内鶴之房扇

